



歯科と全身疾患 ～肝臓病～

No.50

肝臓とは

肝臓は身体の中で最も大きな臓器で「肝心要(かんじんかなめ)」という言葉通り、3つの大事な機能があります。

- ①生命活動に必要な栄養素の代謝や合成
- ②アルコールなどの有害物質の解毒作用
- ③不要な物質を排泄する胆汁の合成・分泌

その他にも止血成分の生成、造血作用、免疫機能などもあります。

また、肝臓の特性としては「肝動脈」と「門脈」という、他の臓器にはない独自の血管があることや、肝臓を創る3000億個以上の細胞が壊れた一部の細胞を補う機能、さらに肝細胞自身に再生能力があるということが挙げられます。それにより肝臓に多少の障害が起きても影響が出にくいのです。



肝臓病と歯科治療

肝硬変・肝癌・ウイルス性肝炎・アルコール性肝炎などの様々な肝臓病がありますが、実はこれらは歯科治療と大きく関係しているのです。肝臓病によって本来の機能が低下または消失してしまうと、抜歯などの外科処置では「止血しにくい」「傷の治りが悪い」等の問題が起こる事があります。また解毒作用の低下から抗生物質や鎮痛剤・麻酔薬などの薬物が効き過ぎたり、体内から抜けずに副作用が出たりする事もあります。

逆に服用する薬の種類によっては肝機能に影響を与え、肝臓の状態を悪化させる事もあります。



ウイルス性肝炎(現在七種類の型が確認されています)では急性・慢性・劇症型などの病態があり、感染力を持つものもあります。特にB型とC型では強い感染力を持ち、血液などの体液で感染すると云われています。歯科治療の中には、口の中に出血を伴うものがあり(抜歯や歯石取りなど)これが医療従事者や他の患者さんに感染する危険をもたらします。しかし、適切な内科的治療とコントロールの下では一般的な歯科治療は可能で、徹底的な滅菌などにより感染の危険も大きく減少します。厄介なのは「キャリア」という、感染して、感染力もあるのに発症しておらず、本人も気がついていない場合で、注意が必要です。また、肝炎に罹っている人でも歯科治療は十分にできます。自分が肝炎であることを診療前に必ず担当歯科医師に伝えることも感染拡大の防止につながりますので、是非自己申告するようにしてください。



日頃から定期健診を受け、自分の肝臓をチェックすることも大切です。1年に1度は健康診断を受けて、自分の健康状態を確認しましょう!



社団法人

柏歯科医師会

Http://www.kamukamu.or.jp

Email:kda@cc.rim.or.jp

